

職員のスキルアップに取り組む

平成25年度より国有林野事業は一般会計の下で事業運営に当たることとなり、より一層の公益重視とともに、森林への親しみやすさの提供も重要となっています。そのため、各地に所在する森林管理署も地域住民等に対する森林とのふれあいや森林環境教育の提供も重要となってきています。

そこで、7月11日(木)において、オホーツク管内の4森林管理署等から13名の職員が参加し、常呂川森林ふれあい推進センター職員が「オホーツクの森」のフィールドを使って、日頃、森林環境教育等を実施する際に、どのような点に注意しているかを体験してもらい、職員のスキルアップに役立ててもらいました。

最初に、アイスブレイクやネイチャーゲームを体験してもらいました。イベント参加においては特に、様々な人が参加している場合、お互い遠慮してしてしまいがちなので、簡単なゲーム等を通して、心の壁を壊していくことが重要な取り組みとなります。



(ネイチャーゲームを体験)



(あだ名を付けてみましょう)

の効用や不思議などを参加者自ら感じさせることができます。

最後に、ロケットラワンを作成して、どこまで高く飛ばすことができるか体験してもらいました。

今回受講した職員の方々においては、この経験を生かして、それぞれの森林管理署等において地域の要望に応じていただく一助になることを願っております。